大村駐屯地司令杯剣道大会と大村市剣道選手権大会に思う

1 大村駐屯地司令杯剣道大会

平成30年10月27日（土）、大村駐屯地司令杯剣道大会を行いました。駐屯地司令杯剣道大会は、地域の青少年の健全な育成に貢献することを目的として、今年で第18回の実施を迎えました。

大会には、園田裕史大村市長、小林克敏県議会議員、里脇清隆県議会議員、今里忍大村市剣道協会会長をはじめとするご来賓の皆さまの参席を得て大会を開催することが出来ました。感謝申し上げます。

また、大会を通じて礼儀作法正しい小中学生剣士の試合を見てみると、心が救われます。大村市長のご挨拶では、六三四の剣を読んだことがありますか。と小中学生に問いかけていました。私の息子も、剣道をしたいと始めた頃、頑張った褒美としてネット通販で六三四の剣を1巻ずつ購入し、プレゼントしていたことを思い出しました。

六三四の剣は書店に置いていないようですが、ネット通販では購入できます。今の時代、このような心に訴えるようなコミックが少ないですね。

2 大村市剣道選手権大会

駐屯地司令杯剣道大会の1週間後には市内の剣道大会があり、小学生から一般の部までの試合が行われ、私も途中まで観戦させて頂きました。

開会式後に行われた演舞では、審判部長自ら演舞が行われました。また、続けて行われた6段以上の個人戦では、普段道場で指導している私よりも年配の先生方も含めた選手が、礼儀、作法をきっちり行い、素早い剣さばきで勝負をし、子供たちに模範を示していました。素晴らしいと感じました。

年齢を重ねると、言葉だけは立派になり、自らの行動は墮落するような人もいます。それでは、現代の子供たち（若い社会人も含まれます。）は、指導をきくことはないでしょう。大村市の小中学生の剣士が礼儀正しいのは、こういった立派な先生方が教えているから、立派な子供たちが育っているのだと思い知らされました。

私は剣の道を志す人間ではありませんが、若い隊員に負けない強靱な体力と、志を堅持することが大切であると、再認識をする機会となりました。

第16普通科連隊長兼大村駐屯地司令

1等陸佐 南野 延寿